

シラバスデータ		
科目名	視能訓練学特論	
年度	令和8年度	授業の目的・ねらい
学科	視能訓練士学科	各科目の要点を理解するとともに、それぞれの科目の繋がりを考えることで国家試験問題を解く力を身につける。 これまで学んだ知識を統合する。
学年	3学年	
コース	—	
開講時期	前期	国家試験過去問題を分析し、要点を確認する。 主要科目がどのように繋がっているかを考え、知識を整理する。
授業回数	45回	
授業形態	講義	
授業外学修	国家試験過去問題を解き、不明点を調べる。	
取得単位数	6単位	授業修了時の達成課題(到達目標)
授業担当者	柚木 仁美 鈴木 ほまれ 村上 綾 星野 貴大	各科目の繋がりを理解することで、国家試験レベルの科目を横断するような問題が解けるようになる。
実務家教員	○	病院における視能訓練士としての実務経験
使用テキスト 参考文献	視能学 第3版(文光堂)	
評価方法	期末考査、小テスト、レポート、課題評価、平常時の授業態度、出席状況等により総合的に評価する。 なお、期末考査基準として【A評価:80～100点(30%)、B評価:70～79点(40%)、C評価:60～69点(30%)、D評価:59点以下(再試験対象)】とする。	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1・2・3	国家試験対策	国家試験過去問題を解いてポイントを確認する。
4・5・6		国家試験過去問題の解答解説からポイントを理解する。
7・8・9		国家試験過去問題を解いてポイントを確認する。
10・11・12		国家試験過去問題の解答解説からポイントを理解する。
13・14・15		国家試験過去問題を解いてポイントを確認する。
16・17・18		国家試験過去問題の解答解説からポイントを理解する。
19・20・21		国家試験過去問題を解いてポイントを確認する。
22・23・24		国家試験過去問題の解答解説からポイントを理解する。
25・26・27		国家試験過去問題を解いてポイントを確認する。
28・29・30		国家試験過去問題の解答解説からポイントを理解する。
31・32・33		国家試験過去問題を解いてポイントを確認する。
34・35・36		国家試験過去問題の解答解説からポイントを理解する。
37・38・39		国家試験過去問題を解いてポイントを確認する。
40・41・42		国家試験過去問題を解いてポイントを確認する。
43・44・45		国家試験過去問題の解答解説からポイントを理解する。
46・47・48	定期試験	定期試験(筆記試験)で理解度を確認する。

シラバスデータ			2024/4/1
科目名	ゼミナール3		
年度	令和8年度	授業の目的・ねらい	
学科	視能訓練士学科	就職活動に関する留意点を確認し備える。 学生調書を作成することで臨地実習に備える。 症例報告発表を行うことで臨地実習で得た知識を各自が振りかえり、共有する。	
学年	3学年		
コース	—	授業全体の内容の概要	
開講時期	前期・後期	就職活動支援、学生調書の作成、症例報告発表	
授業回数	15回		
授業形態	講義		
授業外学修	予習: 毎回授業の中で、予習課題を出します。自分の考えをまとめたり、インターネット等で調べることが必要なものもあります。 復習: 毎回授業の中で配布するプリントを用いて、その日の授業の内容を整理して記述してください。		
取得単位数	2単位	授業修了時の達成課題(到達目標)	
授業担当者	鈴木 ほまれ	就職活動の留意点を把握し、流れを理解する。 学生調書の作成することで、臨地実習での各自の到達目標を明確にし、自分の言葉で説明できるようになる。 臨床現場で関わった症例を自分の言葉で報告し、問題点・解決策を挙げることができる。	
実務家教員	○	総合病院と眼科クリニックにおける視能訓練士としての実務経験	
使用テキスト 参考文献	臨地実習手引等		
評価方法	期末考査、小テスト、レポート、課題評価、平常時の授業態度、出席状況等により総合的に評価する。 なお、期末考査基準として【A評価: 80～100点(30%)、B評価: 70～79点(40%)、C評価: 60～69点(30%)、D評価: 59点以下(再試験対象)】とする。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1・2	就職支援と実習前準備	・実習定期の申請 ・就職活動の流れとルール説明 ・就職模擬面接のための履歴書作成	
3・4			
5・6		・就職模擬面接のための履歴書作成 ・実習施設の概要・理念等を調べ学生調書を作成する。	
7・8			
9・10		・実習記録の書き方(復習)	
11・12		・臨地実習に向けてのケーススタディ ・就職模擬面接練習	
13・14		・臨地実習に向けてのケーススタディ ・就職模擬面接練習	
15・16		・実習手引読み合わせ ・臨地実習に向けての留意点とルール(復習)	
17・18	実習後教育		
19・20			
21・22		・症例報告発表準備	
23・24			
25・26	国家試験受験準備	・弱点対策	
27・28		・弱点対策	
29・30		・国家試験願書作成 ・国家試験に向けての留意点	

シラバスデータ			2024/4/1
科目名	視能矯正学実習Ⅲ		
年度	令和8年度	授業の目的・ねらい	
学科	視能訓練士学科	主訴から疾患を想定し検査を行うことで、これまでの知識を整理する。	
学年	3学年		
コース	—		
開講時期	前期	2人ペアになって疾患を想定した検査を行う。	
授業回数	16回		
授業形態	実習		
授業外学修	予習:これまで学んだ検査の原理・適応・手技・結果の読み取り等を復習しておいてください。 復習:各検査の結果を示し、それぞれの検査について考察を加えてレポートにまとめてください。		
取得単位数	1単位	授業修了時の達成課題(到達目標)	
授業担当者	鈴木 ほまれ	主訴から考えられる疾患を挙げ、必要な検査を考えることができる。 必要な検査を適切な順番で検査できる。 疾患から予想される検査結果を考えることができる。	
実務家教員	○	大学病院と総合病院における視能訓練士としての実務経験	
使用テキスト 参考文献	視能学 第3版(文光堂)、視能矯正学 第3版(金原出版)		
評価方法	期末考査、小テスト、レポート、課題評価、平常時の授業態度、出席状況等により総合的に評価する。 なお、期末考査基準として【A評価:80～100点(30%)、B評価:70～79点(40%)、C評価:60～69点(30%)、D評価:59点以下(再試験対象)】とする。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	症例1	〈時々、片眼が外側に外れる〉 2人ペアとなり、疾患を想定した検査を行う。 ※検査の順番、意義を考えながら行う。	
2			
3	症例2	〈遠見より近見眼位が大きい内斜視〉 2人ペアとなり、疾患を想定した検査を行う。 ※検査の順番、意義を考えながら行う。	
4			
5	症例3	〈ごくわずか(10/4以下)な一眼の経度弱視を伴う内斜視〉 2人ペアとなり、疾患を想定した検査を行う。 ※検査の順番、意義を考えながら行う。	
6			
7	症例4	〈一眼の視力不良(0.01程度)が認められる大斜視角の外斜視〉 2人ペアとなり、疾患を想定した検査を行う。 ※検査の順番、意義を考えながら行う。	
8			
9	症例5	〈複視の訴えがあり眼球運動障害が疑われる斜視〉 2人ペアとなり、疾患を想定した検査を行う。 ※検査の順番、意義を考えながら行う。	
10			
11	検査練習	・Hirschberg法、Krimsky法、遮閉試験、網膜対応検査の手技の確認を2人ペアで行う。 ※検査の順番、意義、説明を考えながら行う。	
12			
13			
14			
15	復習	症例1～5までの検査の流れ、診断名、検査結果のポイントを考える。	
16			
17	定期試験	筆記試験にて知識の確認	

シラバスデータ		
科目名	視覚生理学Ⅱ	
年度	2026年度	授業の目的・ねらい
学科	視能訓練士学科	国家試験に向けて視覚生理学の知識を整理する。
学年	3学年	
コース	—	授業全体の内容の概要
開講時期	通年	視覚生理解剖学的基礎を理解するとともに、各種眼科一般検査の原理と目的を理解する。更に検査機器から得られる結果の分析・評価方法を学び、検査所見より眼疾患を推定・同定するための専門知識を身に着ける。
授業回数	16回	
授業外学修	予習：毎回授業の中で、予習課題を出します。自分の考えをまとめたり、教科書等で調べることが必要なものもあります。 復習：毎回授業の中で配布するプリントを用いて、その日の授業の内容を整理して記述してください。	
取得単位数	2単位	・種々の眼科検査の原理と機能を理解する。 ・検査結果を分析・評価し、眼疾患と結びつけて理解する。
授業担当者	村上 綾 青木 未来	
実務家教員		総合病院・眼科クリニックにおける視能訓練士としての実務経験
使用テキスト 参考文献	視能学 第3版(文光堂)、標準眼科学第14版、眼科検査学ガイド第3版	
評価方法	期末考査、小テスト、レポート、課題評価、平常時の授業態度、出席状況等により総合的に評価する。 なお、期末考査基準として【A評価：80～100点(30%)、B評価：70～79点(40%)、C評価：60～69点(30%)、D評価：59点以下(再試験対象)】とする。	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	復習	視覚生理学Ⅰの復習①
2		視覚生理学Ⅰの復習②
3	電気生理	眼科領域における電気生理検査
4		筋電図について学ぶ
5		網膜検査について学ぶ
6	眼科一般検査	疾患に対して必要な検査を学ぶ
7		光干渉断層計について学ぶ
8		眼底についての検査を学ぶ
9	視覚生理	視力・色覚・光覚に関連した国家試験過去問題を解く
10	視神経疾患	視神経疾患に対して必要な検査に関連した国家試験過去問題を解く
11		視神経疾患に対して必要な検査に関連した国家試験過去問題を解く
12	網膜疾患	網膜剥離について国家試験過去問題を解く
13		網膜循環疾患に必要な検査に関連した国家試験過去問題を解く
14		網膜変性について必要な検査に関連した国家試験問題を解く
15		網膜の黄斑について必要な検査に関連した国家試験過去問題を解く
16	定期試験	定期試験にて各検査の原理、評価方法、適応を理解しているか確認する。その後、解説を行う。

シラバスデータ			2026/4/1
科目名	生理光学Ⅱ		
年度	2026年度	授業の目的・ねらい	
学科	視能訓練士学科	生理光学に関する国家試験問題に解答できるようにする。	
学年	3年		
コース	—	授業全体の内容の概要	
開講時期	通年	生理光学で学習した内容を復習するとともに、関連した国家試験問題を解きながら対策を行う。	
授業回数	15回		
授業形態	講義		
授業外学修	予習:学習予定の項目について『屈折異常とその矯正』を事前に読み、理解が不十分な用語を調べておいてください。 復習:毎回の授業開始時に、理解度の確認を目的として前回の授業内容に関する小テストを実施します。		
取得単位数	2単位	授業修了時の達成課題(到達目標)	
授業担当者	飛松 真紀	生理光学に関する国家試験問題に解答できるようにする。	
実務家教員	○	眼科における視能訓練士としての実務経験	
使用テキスト 参考文献	屈折異常とその矯正(金原出版)、講義用資料		
評価方法	期末考査、小テスト、レポート、課題評価、平常時の授業態度、出席状況等により総合的に評価する。 なお、期末考査基準として【A評価:80～100点(30%)、B評価:70～79点(40%)、C評価:60～69点(30%)、D評価:59点以下(再試験対象)】とする。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	光学の基礎	光の性質に関する国家試験問題の対策を行う。	
2	レンズの結像	レンズの結像に関する国家試験問題の対策を行う。	
3	レンズの主要点と網膜像	レンズの主要点について復習し、網膜像の大きさに関する国家試験問題の対策を行う。	
4	プリズムとプリズム合成	プリズム効果とプリズム合成に関する国家試験問題の対策を行う。	
5	vergenceと結像	vergenceを用いた結像に関する国家試験問題の対策を行う。	
6	眼鏡倍率	眼鏡倍率と相対眼鏡倍率について理解し、倍率に関する国家試験問題の対策を行う。	
7	屈折異常とレンズ	屈折異常とレンズに関する国家試験問題の対策を行う。	
8	調節力と明視域	調節力と明視域に関する国家試験問題の対策を行う。	
9	視力の評価と種類	視力の評価と種類に関する国家試験問題の対策を行う。	
10	屈折検査	自覚的屈折検査と他覚的屈折検査に関する国家試験問題の対策を行う。	
11	調節検査とAC/A比	調節検査とAC/A比に関する国家試験問題の対策を行う。	
12	眼鏡とコンタクトレンズ	眼鏡とコンタクトレンズによる矯正効果の違いを理解し、それらに関連する国家試験問題の対策を行う。	
13	収差	収差に関する国家試験問題の対策を行う。	
14	その他の光学知識	その他の光学知識について復習し、それらに関連する国家試験問題の対策を行う。	
15	眼光学の総合	眼光学に関する過去問題についての総まとめを行う。	
16	定期試験		

シラバスデータ		
科目名	臨地実習Ⅲ	
年度	令和8年度	授業の目的・ねらい
学科	視能訓練士学科	各科目の要点を理解するとともに、それぞれの科目の繋がりを考えることで国家試験問題を解く力を身につける。 これまで学んだ知識を統合する。
学年	3学年	
コース	—	授業全体の内容の概要
開講時期	前期	主訴から診断・治療までの問題解決を図ることを体験的に学び、臨地実習に備える。 臨地実習を通して学んだ実践的な技術・知識を他の人と共有することでより深い理解を得る。
授業回数	20回	
授業形態	講義	
授業外学修	予習：外来で多くみられる症例の臨床所見等を復習して参加してください。 復習：取り上げた症例に関するレポートを作成する。	
取得単位数	6単位	授業修了時の達成課題(到達目標)
授業担当者	鈴木 ほまれ 村上 綾 星野 貴大	患者の主訴から問題解決までを「チーム基盤型学習(Team-based learning:TBL)」で、3クールに分けて学びます。 臨地実習で得られた技術・知識を発表の形で共有する。
実務家教員	○	病院における視能訓練士としての実務経験
使用テキスト 参考文献	視能学 第3版(文光堂)、標準眼科学(第14版)(医学書院)	
評価方法	期末考査、小テスト、レポート、課題評価、平常時の授業態度、出席状況等により総合的に評価する。 なお、期末考査基準として【A評価：80～100点(30%)、B評価：70～79点(40%)、C評価：60～69点(30%)、D評価：59点以下(再試験対象)】とする。	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1・2・3	【実習前教育】 症例1	主訴・検査データから疑うべき疾患を挙げ、患者の背景と抱える問題の解決についてディスカッション・プレゼンテーションをする。
4・5・6	【実習前教育】 症例2	主訴・検査データから疑うべき疾患を挙げ、患者の背景と抱える問題の解決についてディスカッション・プレゼンテーションをする。
7・8・9	【実習前教育】 症例3	主訴・検査データから疑うべき疾患を挙げ、患者の背景と抱える問題の解決についてディスカッション・プレゼンテーションをする。
10・11・12	【実習前教育】 症例4	主訴・検査データから疑うべき疾患を挙げ、患者の背景と抱える問題の解決についてディスカッション・プレゼンテーションをする。
13・14・15	【実習前教育】 症例5	主訴・検査データから疑うべき疾患を挙げ、患者の背景と抱える問題の解決についてディスカッション・プレゼンテーションをする。
16・17・18	【実習前教育】 症例6	主訴・検査データから疑うべき疾患を挙げ、患者の背景と抱える問題の解決についてディスカッション・プレゼンテーションをする。
19・20	まとめ	これまでの症例をまとめ、関係する正常値、臨床所見等を整理する。

シラバスデータ			2026/4/1
科目名	視能障害学実習		
年度	令和8年度	授業の目的・ねらい	
学科	視能訓練士学科	主訴から疾患(網膜)を想定し検査を行うことで、これまでの知識を整理する。	
学年	3学年		
コース	—	授業全体の内容の概要	
開講時期	前期	2人ペアになって疾患を想定した検査を行い、網膜疾患についての理解を深める。	
授業回数	17回		
授業形態	演習		
授業外学修	予習:被検査者側として相手に実習してもらう網膜疾患と想定検査を考えておく 復習:実習内容をレポートにまとめ、考察する。特に、他に必要な検査はあるかを疾患について理解を深めて精査すること。		
取得単位数	2単位	授業修了時の達成課題(到達目標)	
授業担当者	青木 未来	主訴から考えられる疾患を挙げ、必要な検査を考えることができる。必要な検査を適切な順番で検査できる。	
実務家教員	○	総合病院、眼科クリニックにおける視能訓練士としての実務経験	
使用テキスト 参考文献	視能学 第3版(文光堂)、標準眼科学第14版、眼科検査学ガイド第3版		
評価方法	期末考査、小テスト、レポート、課題評価、平常時の授業態度、出席状況等により総合的に評価する。 なお、期末考査基準として【A評価:80～100点(30%)、B評価:70～79点(40%)、C評価:60～69点(30%)、D評価:59点以下(再試験対象)】とする。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1・2	症例1	2人ペアとなり、チュートリアルとして指定した疾患について以下の項目について考え、互いに検査実習を行う。	
3・4	症例2	2人ペアとなり、疾患を想定した検査を行う。 ※被検者は症例1と異なる疾患を想定して問診票に記入すること。	
5・6	症例3	2人ペアとなり、疾患を想定した検査を行う。 ※検者は症例1,2で行った疾患を被検者に必ず伝えて下さい。その上で、被検者は症例を決めること。	
7・8	症例4	2人ペアとなり、疾患を想定した検査を行う。 ※検者は症例1～3で行った疾患を被検者に必ず伝えて下さい。その上で、被検者は症例を決めること。	
9・10	症例5	2人ペアとなり、疾患を想定した検査を行う。 ※検者は症例1～4で行った疾患を被検者に必ず伝えて下さい。その上で、被検者は症例を決めること。	
11・12	症例6	2人ペアとなり、疾患を想定した検査を行う。 ※検者は症例1～5で行った疾患を被検者に必ず伝えて下さい。その上で、被検者は症例を決めること。	
13・14	症例7	2人ペアとなり、疾患を想定した検査を行う。 ※検者は症例1～6で行った疾患を被検者に必ず伝えて下さい。その上で、被検者は症例を決めること。	
15・16	症例8	2人ペアとなり、疾患を想定した検査を行う。 ※検者は症例1～7で行った疾患を被検者に必ず伝えて下さい。その上で、被検者は症例を決めること。	
17	定期試験	定期試験にて各検査の原理、評価方法、適応を理解しているか確認する。その後、解説を行う。	

シラバスデータ			2026/4/1
科目名	眼科薬理学Ⅱ		
年度	2026年度	授業の目的・ねらい	
学科	視能訓練士学科	・眼科薬理学Ⅰで習得した事項を踏まえて、総復習及び国家試験対策をするための勉強方法を学ぶ。 ・小テスト・授業・発表を通じて知識の習得を図る	
学年	3年		
コース	—	授業全体の内容の概要	
開講時期	通年	・視能訓練士として必要な基本的な薬剤の作用機序と効果、及び副作用を復習し、国家試験問題を実際に解き、その発表をし質疑応答を受ける体験を通じて患者さんからの質問からの対応力を身につける	
授業回数	8回		
授業形態	講義		
授業外学修	予習：学習予定の項目について『点眼薬クリニカルブック第2版』を事前に読み、理解が不十分な用語を調べておいてください。 復習：8コマ目まで毎回確認テスト(15分)を予定しています。		
取得単位数	1単位	授業修了時の達成課題(到達目標)	
授業担当者	永野 繁光	・国家試験問題に慣れる。 ・点眼薬を理解し、医薬品に添付される添付文書が理解できるようになる。 ・眼科治療薬、検査薬、機能訓練で使用される薬の薬理作用、副作用、使用禁忌について理解する。	
実務家教員	○	調剤薬局における薬剤師としての実務経験	
使用テキスト 参考文献	点眼薬クリニカルブック第2版(金原出版株式会社)		
評価方法	期末考査、小テスト、レポート、課題評価、平常時の授業態度、出席状況等により総合的に評価する。 なお、期末考査基準として【A評価：80～100点(30%)、B評価：70～79点(40%)、C評価：60～69点(30%)、D評価：59点以下(再試験対象)】とする。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	基礎薬理学	小テスト①、点眼薬とは？眼科薬理学Ⅱの進め方、評価方法	
2	神経作用薬	小テスト②、散瞳薬・縮瞳薬について…国家試験発表①②	
3	緑内障	小テスト③、緑内障治療薬(PG関連薬、β遮断薬、α1遮断薬、他)…国家試験発表③④	
4	白内障・黄斑変性・角膜保護薬	小テスト④、白内障・黄斑変性・麻酔薬・ドライアイ薬…国家試験発表⑤⑥	
5	抗炎症薬・ステロイド	小テスト⑤、ステロイド、nSAIDs、他…国家試験発表⑦⑧	
6	アレルギー薬	小テスト⑥、アレルギー薬…国家試験発表'①'②'③	
7	抗菌薬抗真菌薬・抗ウイルス薬	小テスト⑦、真菌薬・ウイルス薬等…国家試験発表'④'⑤'⑥	
8	消毒薬・検査薬	小テスト⑧、消毒薬・検査薬・薬物中毒…国家試験発表'⑦'⑧	
9	期末テスト	視力の評価と種類に関する国家試験問題の対策を行う。	

シラバスデータ			2026/4/1
科目名	障害の理解		
年度	令和8年度	授業の目的・ねらい	
学科	視能訓練士学科	・高次脳機能障害について学び、視覚機能を高次脳機能障害からアプローチし、医療現場における検査・訓練に繋げる	
学年	3年		
コース		授業全体の内容の概要	
開講時期	前期	・脳の障害部位における機能障害を理解し認知障害も含め、障害の原因・病態評価などを学習する ・高次脳機能障害における視覚機能への影響も学習する	
授業回数	9回		
授業形態	講義		
授業外学修	予習：毎回授業の中で、予習課題を出します。自分の考えをまとめたり、インターネット等で調べることが必要なものもある 復習：毎回授業の中で配布するプリントを用いて、その日の授業の内容を整理して記述すること		
取得単位数	1単位	授業修了時の達成課題（到達目標）	
授業担当者	石田 麗	・脳障害の原因・病態の理解 ・高次脳機能障害における視覚機能への影響の理解	
実務家教員	○	障害者支援施設における介護福祉士としての実務経験	
使用テキスト 参考文献	適宜必要資料配布		
評価方法	期末考査、小テスト、レポート、課題評価、平常時の授業態度、出席状況等により総合的に評価する。 なお、期末考査基準として【A評価：80～100点(30%)、B評価：70～79点(40%)、C評価：60～69点(30%)、D評価：59点以下(再試験対象)】とする。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	オリエンテーション 高次脳機能障害概論	総論・概論	
2	高次脳機能障害の病態と評価1	失語・失行・失認・記憶障害	
3	高次脳機能障害の病態と評価2	注意障害・遂行機能障害・社会的行動障害	
4	高次脳機能障害 まとめ	まとめ（評価対象課題あり※提出必須）	
5	重複障害	複数の障害を併せ持つ状態	
6	発達障害	発達障害の特性	
7	脳血管障害	脳血管障害と視野	
8	まとめ	7コマ分の内容確認	
9	試験	筆記試験 ※学んだ内容の定着の確認のため、試験を実施	

シラバスデータ		
科目名	視能訓練学Ⅱ	
年度	令和8年度	授業の目的・ねらい
学科	視能訓練士学科	これまでの復習と国家試験過去問題の演習を行うことで、出題傾向をつかみ国家試験合格へ繋げる。
学年	3学年	
コース	—	授業全体の内容の概要
開講時期	後期	視能矯正分野の復習と国家試験過去問題を解くことでポイントを確認する。
授業回数	15回	
授業形態	講義	
授業外学修	予習:事前に『視能学』等を読み不明点を調べておく。 復習:国家試験過去問題を解き、理解を深める。	
取得単位数	2単位	授業修了時の達成課題(到達目標)
授業担当者	鈴木 ほまれ	国家試験、または、それ以上の問題を解くことができるようになる。 検査データの評価を適切に行うことができる。
実務家教員	○	大学病院・総合病院における視能訓練士としての実務経験
使用テキスト 参考文献	視能学 第3版(文光堂)	
評価方法	期末考査、小テスト、レポート、課題評価、平常時の授業態度、出席状況等により総合的に評価する。 なお、期末考査基準として【A評価:80～100点(30%)、B評価:70～79点(40%)、C評価:60～69点(30%)、D評価:59点以下(再試験対象)】とする。	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	眼球運動	外眼筋の解剖と作用、眼球運動の法則、AC/A比
2		
3	両眼視機能	パナムの融像感覚、網膜対応
4		
5	内斜視と外斜視	調節性内斜視、乳児内斜視、間欠性外斜視、感覚性斜視など
6		
7	特殊斜視	交代性上斜位、、AV型斜視、微小斜視、重症筋無力症、Brown症候群など
8		
9		
10		
11	弱視	屈折異常弱視、不同視弱視、斜視弱視、微小斜視弱視、形態覚遮断弱視
12	訓練	抑制除去訓練、異常対応矯正訓練、偏心固視矯正訓練など
13		
14	外眼筋手術	弱化術、強化術、移動術など
15		
16	定期試験	定期試験(筆記試験)で理解度を確認する。

シラバスデータ		
科目名	神経眼科学Ⅱ	
年度	2026年度	授業の目的・ねらい
学科	視能訓練士学科	・核・核下性疾患について学ぶ
学年	3学年	
コース	—	授業全体の内容の概要
開講時期	後期	・核・核下・核上性疾患について、解剖や病態を学ぶ
授業回数	8回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
授業外学修	予習:学習予定の項目について『視能学』『神経眼科学を学ぶ人のために』を事前に読み、理解が不十分な用語を調べておいてください。 復習:毎回の授業開始時に、理解度の確認を目的として前回の授業内容に関する小テストを実施します。	
取得単位数	1単位	・核・核下・核上性疾患の病態生理を理解する
授業担当者	星野 貴大	
実務家教員	○	総合病院における視能訓練士としての実務経験
使用テキスト 参考文献	神経眼科学を学ぶ人のために 第4版(医学書院)、視能学 第3版(文光堂)	
評価方法	期末考査、小テスト、レポート、課題評価、平常時の授業態度、出席状況等により総合的に評価する。 なお、期末考査基準として【A評価:80～100点(30%)、B評価:70～79点(40%)、C評価:60～69点(30%)、D評価:59点以下(再試験対象)】とする。	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	自律神経	自律神経について復習する
2	瞳孔疾患	瞳孔疾患 (Horner症候群、瞳孔緊張症)
3		瞳孔疾患 (動眼神経麻痺、Argyll Robertson症候群など)
4	核上性疾患	核上性疾患 (水平眼球運動障害)
5		核上性疾患 (垂直眼球運動障害)
6	輻湊開散の障害	輻湊開散の障害
7	眼振	先天眼振、後天眼振
8	まとめ	神経眼科の疾患についてまとめを行う。
9	定期試験	定期試験と解説

シラバスデータ			2026/4/1
科目名	ロービジョン医学Ⅱ		
年度	令和8年度	授業の目的・ねらい	
学科	視能訓練士学科	ロービジョンに関する国家試験問題に解答できるようにする。	
学年	3学年		
コース	—	授業全体の内容の概要	
開講時期	後期	ロービジョンに関する国家試験の過去問題の検討・対策を行い、国家試験に備える。	
授業回数	8回		
授業形態	講義		
授業外学修	予習：授業の中で、予習課題を出します。自分の考えをまとめたり、調べるが必要なものもあります。 復習：授業の中で配布するプリントを用いて、その日の授業の内容を整理して記述してください。		
取得単位数	1単位	授業修了時の達成課題（到達目標）	
授業担当者	永井 理一朗	ロービジョンに関する国家試験問題に解答できるようにする。	
実務家教員	○	診療所における視能訓練士としての実務経験	
使用テキスト 参考文献	視能学第3版(文光堂)、ポイントマスター！ロービジョンケア外来ノート(三輪書店)		
評価方法	期末考査、小テスト、レポート、課題評価、平常時の授業態度、出席状況等により総合的に評価する。 なお、期末考査基準として【A評価：80～100点(30%)、B評価：70～79点(40%)、C評価：60～69点(30%)、D評価：59点以下(再試験対象)】とする。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	ロービジョンの定義	ロービジョンの定義や障害者程度等級に関する国家試験過去問題の検討、対策を行う。	
2	ロービジョンの推移	ロービジョン者の推移や原因疾患に関する国家試験過去問題の検討、対策を行う。	
3	ロービジョンの実際	ロービジョン者の視機能評価に関する国家試験過去問題の検討、対策を行う。	
4	視覚補助具Ⅰ	視覚補助具・日常生活用具に関する国家試験過去問題の検討、対策を行う。	
5	視覚補助具Ⅱ	拡大鏡に関する国家試験過去問題の検討、対策を行う。	
6	視覚補助具Ⅲ	遮光眼鏡や拡大読書器、単眼鏡に関する国家試験過去問題の検討、対策を行う。	
7	ロービジョン者の誘導	ロービジョン者の誘導に関する国家試験過去問題の検討、対策を行う。	
8	まとめ	授業を通じて学んだことを整理する。	
9	筆記試験	学んだ内容の定着の確認のため、試験を実施する。	

シラバスデータ		
科目名	眼疾病学Ⅱ	
年度	2026年度	授業の目的・ねらい
学科	視能訓練士学科	眼科の疾患について、基本的な知識を身につける
学年	3学年	
コース	—	授業全体の内容の概要
開講時期	後期	眼科疾患及び眼科関連全身疾患について学習し、疾患の名称、病態を理解した上で国家試験過去問を解けるようにする。
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
授業外学修	予習:学習予定の項目について『視能学』『標準眼科学』を事前に読み、理解が不十分な用語を調べておいてください。 復習:毎回の授業開始時に、理解度の確認を目的として前回の授業内容に関する小テストを実施します。	
取得単位数	2単位	一般的な眼科疾患の名称、病態を理解する
授業担当者	星野 貴大	
実務家教員	○	総合病院・診療所における視能訓練士としての実務経験
使用テキスト 参考文献	視能学 第3版(文光堂)、標準眼科学(第14版)(医学書院)	
評価方法	期末考査、小テスト、レポート、課題評価、平常時の授業態度、出席状況等により総合的に評価する。 なお、期末考査基準として【A評価:80～100点(30%)、B評価:70～79点(40%)、C評価:60～69点(30%)、D評価:59点以下(再試験対象)】とする。	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	角膜・結膜①	角膜・結膜疾患について国家試験過去問を解く
2	角膜・結膜②/強膜・ぶどう膜①	角膜・結膜疾患と強膜・ぶどう膜疾患について国家試験過去問を解く
3	ぶどう膜②	強膜・ぶどう膜疾患について国家試験過去問を解く
4	水晶体	水晶体疾患について国家試験過去問を解く
5	緑内障①	緑内障について国家試験過去問を解く
6	緑内障②	緑内障について国家試験過去問(症例)を解く
7	網膜・硝子体①	網膜剥離・硝子体疾患について国家試験過去問を解く
8	網膜・硝子体②	網膜循環障害について学ぶ
9	網膜・硝子体③	網膜黄斑部疾患について国家試験過去問を解く
10	網膜・硝子体④	網膜変性疾患・硝子体疾患について国家試験過去問を解く
11	視神経	視神経疾患について国家試験過去問を解く
12	眼瞼/涙器	眼瞼疾患、涙器疾患について国家試験過去問を解く
13	眼窩	眼窩疾患について国家試験過去問を解く
14	腫瘍/外傷/全身と眼	腫瘍、眼外傷、全身疾患について国家試験過去問を解く
15	まとめ	眼疾患の総復習と国試対策を行う

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
16	筆記試験と解答解説	筆記試験と解答解説を行う

シラバスデータ		
科目名	視器の解剖生理学	
年度	2026年度	授業の目的・ねらい
学科	視能訓練士学科	視器の解剖・生理について復習する。
学年	3学年	
コース	—	授業全体の内容の概要
開講時期	後期	眼球ならびに眼瞼・外眼筋・涙器などの解剖・生理について国家試験に向けて学習する。
授業回数	8回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
授業外学修	予習:学習予定の項目について『視能学』『標準眼科学』を事前に読み、理解が不十分な用語を調べておいてください。 復習:毎回の授業開始時に、理解度の確認を目的として前回の授業内容に関する小テストを実施します。	
取得単位数	1単位	眼球周辺の付属器の機能を知って、眼球が感覚器として維持している仕組みを理解する。 視覚は眼と脳とが密接に関係をもちながら機能していることが判断できる。
授業担当者	星野 貴大	光を透過させる眼球内容物について把握できる。 眼科疾患の病態を解剖・生理学の知識と結びつけて理解できる。
実務家教員	○	総合病院における視能訓練士としての実務経験
使用テキスト 参考文献	視能学 第3版(文光堂) 標準眼科学 第14版(医学書院)	
評価方法	期末考査、小テスト、レポート、課題評価、平常時の授業態度、出席状況等により総合的に評価する。 なお、期末考査基準として【A評価:80～100点(30%)、B評価:70～79点(40%)、C評価:60～69点(30%)、D評価:59点以下(再試験対象)】とする。	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	眼球の解剖・生理	角膜・強膜についての復習を行う。
2		ぶどう膜・房水・隅角・水晶体についての復習を行う。
3		硝子体、網膜、黄斑部、眼球血管系についての復習を行う。
4	眼球付属器	眼瞼・結膜・涙器についての復習を行う。
5		眼窩・視神経・外眼筋についての復習を行う。
6	眼の発生	眼の発生についての復習を行う。
7	まとめ①	解剖のまとめを行う。
8	まとめ②	解剖学と眼疾患の関連付けを行う。
9	期末試験と解答解説	筆記試験と解答解説を行う。